

小松川第一中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小松川第一中学校長 大林 博
 コーディネーター 松本 洋之

2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	300人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
朝のあいさつ運動	ほぼ毎日	180人
感染防止講演会	年1回	1人
薬物乱用防止教室	年1回	4人
進路講座	年3回	8人
SNS 講座	年1回	2人
職業講話	年1回	2人
道徳講話	年1回	2人
オリパラ体験教室	年1回(予定)	4人



感染防止講演会（令和3年5月13日）



道徳講演会（令和3年12月16日）

今年度の成果と課題

<成 果>

本年度の初めは、新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的とした教育活動を意識して実施し、学校応援団の構成員を兼務するPTAの協力の下で「感染防止講演会」を実施し、生徒を中心に好評を得た。その後も、緊急事態宣言の発出により教育活動への制限がある中で「朝の登校見守り運動」を実施し、多くのボランティアの参加を得ている。昨年に引き続き、「薬物乱用防止教室」「進路講座」「SNS講座」「職業講話」について、地域の方々や校外学習でお世話になる方々にボランティアを引き受けていただいで実施している。

このように、学校や地域における様々な活動を通して地域の方々からたくさんの方々に教えていただき、親交を深めつつ、地域の一員としての足場を固めている。

<課 題>

今年度も、生徒が例年参加していた地域行事の多くが中止となっている。が、令和4年1月現在で実施されている「自転車盗ゼロ作戦」や「小松川千本桜育樹祭」に参加した生徒たちは貴重な体験を積み重ねている。今後も、地域行事の全面的な再開の際に多くの生徒が主体的に参加の意思が持てるよう、本校の生徒のために時間と労力を費やしてくださる地域の方々への感謝の気持ちを持たせたい。また、放課後の補習教室や定期考査前の質問教室で生徒に学習支援をしてくださる人材も確保したい。

5 コーディネーターより

学校・保護者・地域が一体となって諸活動に取り組むことができるように学校応援団コーディネーターとして協力させていただいています。今年度は、様々な感染症対策の下で活動を継続しましたが、今後も地域ぐるみで子どもたちを見守り、育てていくという方針の下、多くの保護者・地域の皆様からのご理解とご協力に基づきまして活動を進めてまいりたいと考えています。

これからもこの活動を継続できるように、保護者・地域の皆様には、これまで培ってきた自らの経験や知識・技能を生かし、できる人が、できる時に、できる事をやるということを基本として、ご支援、ご協力をお願いしたいと考えています。

6 学校長より

本校では、学校主催の活動と地域主催の活動の両方を「学校応援団の活動」として位置付けている。

●学校主催で行う活動

学校主催で行う活動は、前ページの「3 今年度の活動状況」に記載した内容である。本校の学校行事は学校応援団の方々の協力によって支えられて成り立っており、これまでも大きな成果を収めてきた。今年度は、学校応援団の協力を得て「新たな生活様式」を意識して、生徒一人一人が運動の大切さを知り、豊かなスポーツライフを送ることができるよう、体幹トレーニングを中心とした体験的な学習を行った。

●地域主催の活動

例年、青少年育成地区委員会では地域行事の進行に関して大勢のボランティアを募集している。これまで、本校では生徒にボランティア活動を奨励して進行の協力を経験させており、地域の方々と触れ合うことで地域の一員としての自覚を深める機会をもってきた。

次年度以降もこれまでのように、学校応援団の方々から支援と協力をいただきながら、今後も地域・保護者との関わりを大切にしつつ、生徒の健全育成に努めていく。

小松川第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小松川第二中学校長 横澤 広美
コーディネーター 村上 則俊

2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	60人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校行事協力	不定期	40人
環境整備	不定期	20人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

例年、本校の教育活動全般を学校応援団活動によりバックアップしていただいています。その中でも本校の二大行事である運動会、文化祭等の大きな行事の運営に御尽力いただいています。昨年度は中止だったその行事も、今年度は一部保護者に開放する形に変わりながらの開催が実現でき、応援団の方々にもご協力いただくことができました。まだまだ先の見えないコロナ禍ですが、新しい生活様式に向けて、生徒の健康・安全を守るため、校舎内の消毒活動を含めて、多くの方々に御協力いただけて感謝の一言に尽きます。

<課 題>

昨年度に引き続き今年度もコロナウイルス感染症のため、多くの活動に制限がかかり、思うような活動ができませんでした。そのような中で学校応援団の活動の多くをまだまだ学校の教員やPTA本部役員の方々をお願いしており、多大なる御負担をおかけしています。より多くの方々に学校応援団活動を知っていただき、御協力いただくためには、さらに広報活動を盛んにしていく必要があると考えます。また、コロナ禍以降は、学校応援団員と生徒個々人がより親密に関わることのできるような企画を考えていければと思っております。

5 コーディネーターより

今年度は学校行事が変則的に実施できたものの、以前とは違った形なので従来のようには学校運営に貢献することができませんでした。しかし、そのような中でも、校内の消毒活動や環境美化など生徒の安心安全のために活動をしてきました。今後もさらに多くの方々に御協力いただくため、機会を見て宣伝や勧誘を行い、いろいろな分野で学校の教育活動を応援していきたいと考えております。

6 学校長より

今年度も学校応援団の皆様の御協力を得て、充実した教育活動を行うことができました。生徒は地域の中で育ち、学校は地域に支えられています。本校の教育活動に御協力、御尽力いただいた皆様に心から感謝申し上げますとともに、今後も引き続き御支援、御協力をよろしくお願いいたします。

小松川第三中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小松川第三中学校長 小野塚 浩樹
 コーディネーター 鹿倉 勇

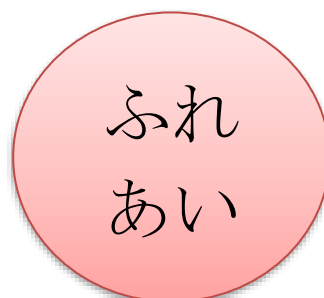


2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	19人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学習補充指導	今年度中止	
行事運営補助	不定期	10人
コマサンまつり	今年度中止	
出前授業・講演	留学生が先生	5人
環境整備・安全指導	不定期（花壇の整備） 今年度中止	



4 今年度の成果と課題

<成 果>

新型コロナウイルス感染症の影響により外部の方にご協力いただけるのは、一部の活動に制限せざる負えなくなりました。本校は以前から PTA や地域の方の協力が大変盛んで「コマサン祭」をはじめ、学校と地域のつながりが深く太く続いています。今年度は、学校公開における受付業務のお手伝いをいただきました。また、新型コロナウイルス感染症が収束に向けてからの活動や、今後の学校統合に向けて、生徒のためにできることなどの話ができただことは成果の一つでした。3月の卒業式に向けて、2月、3月で花壇の整備を行う予定で、校内を華やかに彩り、地域の方々や生徒の心の安らぎにつながるようにしていきたいです。

<課 題>

今後も引き続くと考えられる新型コロナウイルス感染症との共存の中で、外部の方の力を借りて何ができるか、新しいことに取り組んでいく必要があると感じます。生徒の柔軟な発想の中から取り組める内容が出てくるような取組も考えています。

本校では、3人の部活動指導員、4人の部活動外部指導員、1人のSSS、2人の介助員など、無償ボランティアではないが外部人材の活用により、より充実した活動が行えていることは今後も引き続き継続したいと考えています。

5 コーディネーターより

本校同窓会長兼コーディネーターを務めさせて頂いております。微力ながら、学校、家庭、地域をつないできました。また現在は、学校評議委員として常に小松川第三中学校を見守ってきました。学校応援団コーディネーターとして「やれることから」をスローガンに活動していきたいと考えています。しかしながら、生徒、PTA、各町会・地域の事業所などの力を集結させるコマサン祭は、今年度は残念ながら中止となりました。コロナ禍がおさまり、今後も地域の中のコマサンとして子どもたちの学校生活をサポートしていきたいと考えています。

6 学校長より

平井・小松川地区は、元々地域が人・子供を育てようという営みが盛んな地域です。生徒達の参加するボランティア活動を多数用意し、地域の方々が地域に生きる生徒を育てていただいています。そのような環境の中で、本校は「ふれあい」を大切に「アットホームな学校づくり」に取り組んでおります。

また「持続可能な開発のための教育（ESD）」に取り組むべく、校内研修を進める中で、生徒の学習活動を家庭や地域に広げていくことができればとも考えています。サステイナブルスクールを目指し、学校応援団の皆様とも今後も連携していきます。

今年度は、様々な地域行事が中止とされる中で、1月に実施されました「環境をよくする運動・安心安全街づくりキャンペーン」には70名以上の生徒が参加しました。今後も地域の中での生徒の活躍を期待していきます。

松江第一中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第一中学校長 山 岸 健
 コーディネーター 中 里 義 雄

2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア登録数	一般ボランティア	60人
	学生ボランティア	1人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書室整理・管理支援	毎週水曜を基本とする	20人
土日等学習支援	定期考査直前の土曜日（年3回）	6人
行事支援(蓮の植え)	1学期（不定期）	30人
行事支援(蓮の収穫祭)	2学期（不定期）	50人
蓮田の管理支援	毎週（不定期）	1人



【松江会・学校評議員】
 ・蓮植え・蓮収穫祭

【保護者・PTA】
 ・図書室整備・運動会
 ・図書室の放課後開室
 ・学校公開受付
 ・校内巡視

【地域・町会】
 ・五校協議会
 ・地域奉仕活動
 ・おやじとパトロール



4 今年度の成果と課題

<成 果>

- ・新型コロナウイルスの影響で例年行っている行事を大規模には実施できなかったが、例年通りOB、PTA、地域等で協力し行うことができた。
- ・図書室ボランティア活動が組織され10年目となった。夏休み中に図書室の蔵書の整理ができた。今年度は、放課後図書室を定期的の開室することができた。また、図書購入の際に本の選定作業の手伝いもしていただいた。
- ・様々な活動を通して、子供たちの教育は、学校だけでなく家庭、地域も関わりながら三位一体で行っていく必要があるということがより明確になった。

<課 題>

- ・学校応援団の人員の確保が今後課題になる。
- ・学習支援のボランティアの人数を確保することが、毎年の課題となっている。
- ・コロナ対策の中での応援団活動の実施

5 コーディネーターより

第三十一代PTA会長の中里です。コーディネーター10年目になります。今年度も新型コロナウイルスの感染防止のため「蓮の収穫」が心配されましたが、学校評議員、PTA、地域の方、松江会（OB会）のご支援、さらに、ボランティアさんの協力のもとで、5月3日と11月3日に蓮を収穫することができました。天候の影響もありましたが昨年度と同様の蓮を収穫することができました。来年度も引き続き実施していきたいと思います。また、図書室ボランティア活動が定着し、ほぼ毎週水曜日に図書室の開館ができるようになりました。

今後もPTA・地域の方・OBの方々と協力して、松江一中のためにできることに積極的に取り組んでいきたいと思います。

6 学校長より

本校では、学校応援団として活動する以前から学校評議員、PTA、地域の方々、松江会（OB会）をはじめたくさんの方から様々なご支援をいただけてきました。そして、現在ある組織を活用して「学校応援団」を発足しています。

昨年度は、東京都から表彰を受けました。本校旧PTA会長の中里コーディネーターを中心に蓮田活動や様々な行事を今後も盛り上げていただきました。

子どもは地域の宝です。学校・家庭・地域が連携、協働して育てなくてはなりません。

その共育の核となる「学校応援団」をさらに充実させていこうと思います。

松江第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第二中学校長 折橋 信二
コーディネーター 関 和典

2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	12人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から花壇づくり以外の活動を中止しました。

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
あいさつ運動	4,5月以外の毎週月曜日 8:00 より	今年度実施せず
面接練習	12月上旬	今年度実施せず
花壇作り	11月上旬	1名
茶道教室	3月上旬	今年度実施せず



学校応援団面接(参考)



落ち葉はき活動(参考)

4 今年度の成果と課題

<成 果>

毎年、応援団と保護者・生徒（本校の生活委員）が合同で、毎週月曜日に朝のあいさつ運動を実施していましたが、今年度もコロナ感染症対策のために昨年度末から引き続き学校休業日が続いたため、実施することができませんでした。

毎年、11月に実施している花壇づくりについては、コーディネーターと相談し、コロナ禍ではありますが来年の春に向けてせめて、苗の植え付けだけでもと生徒会の生徒、主事さんたちと植え付けをしました。

また例年、12月には受験を控えた3年生の面接練習を1週間にわたって行なって行なっていましたが、今年度も感染症対策のため残念ながら中止としました。例年、3月上旬に卒業を前にした3年生を対象とした茶道教室も同様です。一日も早い正常化を望みます。

<課 題>

課題としては、学習支援活動、部活動の支援、生活の安全確保のための活動、あいさつ運動などのPTA活動との連携、道路クリーンアッププロジェクトなどの生徒会活動との連携をはじめ、松江第二中の学校に係る様々な取組を学校応援団の活動につなげていくことを考えています。そのためには、一人でも多くの応援団員の力が必要です。地域との連携、人材の確保が今後の重要な課題となっています。

5 コーディネーターより

今年度も例年、多くの生徒が活動に参加していた登校時に行う朝のあいさつ運動も実施することができませんでした。11月の花壇づくりは、来春に向けて主事さんや生徒会の生徒の協力のもと、苗の植え付けを行いました。面接練習(12月)は例年、3年生の生徒たちの進路に対する真剣な思いが一人一人から伝わってくる行事ですが、今年度も見合わせることにしました。このように昨年度同様に通常の活動ができない状況でありましたが、今後、応援団の活動で関わった子どもたちの成長していく姿を見ることができるよう、今後もより良い学校づくりに携わっていきます。どうぞよろしくお願ひ致します。

6 学校長より

本校は地域との強い結びつきによって支えられてるということ、学校行事を始めとする様々な場面を通じて実感しています。そして、学校応援団も本校の支えとなる大切な活動です。今年も新型コロナウイルス予防対策のために、思うような活動ができませんでした。例年あいさつ運動に始まり、面接練習などの活動をコーディネーターさん中心に、進めていただいていた。3月には3年生を対象に茶道教室を実施予定でした。このようにほとんどの活動が実施できない状況でありましたが、今後コロナ禍が一日も早く収束し安心して活動できる日が訪れることを願っております。

来年度も、学校応援団とともに「新しい松江二中」の実現に向かって、活動の充実を図ってまいりますのでご協力の程、よろしくお願ひ致します。

松江第三中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第三中学校 校長 山口 孝
コーディネーター 上野 康雄

2 ボランティア数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	30人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
登下校巡回見回り	不定期	20人
環境整備	不定期	10人
行事支援	不定期（今年度は中止）	30人
祭礼パトロール	夏季休業中（今年度は中止）	20人

<学校応援団感謝状贈呈>

平成30年度、11月1日の東京都教育の日に、平成30年度学校活動支援団体に対する感謝状贈呈式において、地域における児童・生徒の育成活動部門で、本校の学校応援団団長、上野康雄様が感謝状を頂きました。これからも学校応援団、OB会、PTA（現在、活動休止中）の方々の活動支援を賜りますようお願い致します。

<地域防災> 今年度は中止になりました。

毎年消防署の方を招き、保護者や地域の方々に参加していただく訓練です。一昨年度は11月に「煙ハウス」の体験訓練を中心に実施しました。見た目は何でもないような煙ですが、実際にはハウスの中はほとんど視界がきかず、これが夜だったらと思うと恐怖さえ感じるほどでした。来年度は、学校応援団を含めた地域の方々にたくさん参加し、体験して頂けたらと思います。



<花壇及び菜園>

27年度より花壇を作り菜園として手入れをし、色々な作物を育てています。また、四年前から「耕運機」を稼働させ、耕す時間が大幅に減少できています。花壇隣には防災井戸も完成し、今後の水やりにも活用していきます。

4 今年度の成果と課題

<成 果>

○花壇と菜園は、地域の方や園芸関係の方から手ほどきを受け、徐々に成果を出していくことが課題です。次回の挑戦は「馬鈴薯」を収穫することです。他の作物の収穫も目指した取り組みをします。数年後に松三中産の収穫物をお見せすることが出来るようにしていきます。

○一昨年度、地域防災のボランティア活動に21名の生徒が参加しました。また近隣小学校のボランティアには33名の生徒が参加し、地域を盛り上げました。人の役に立ったり、人から喜んでもらえたりすることは、自分にとってもやりがいや喜びにつながっていくものです。今年度は中止になりましたが、これからも多くの本校生徒が進んでボランティア活動に参加することを願っています。

<課 題>

○三年前より、諸事情で三中フェスティバルを実施できていませんが、またの機会があれば、メンバー全員で盛り上げて実施したいと考えています。学校応援団、OB会、PTA（現在、活動休止中）の方々は、お仕事をもちつつ学校への協力ということでお忙しい時間のやりくりをして頂く中、どう時間を捻出し、効果的に色々な取組みにしていくかが今後の課題となります。

5 コーディネーターより

学校応援団として、祭礼パトロール、三中フェスティバルへの協力、菜園の定期的な管理をしてきましたが、平成30年度に東京都教育委員会より学校活動支援団体に対する感謝状を頂くことができました。校長先生からは「何かあったときに助けてくれる学校応援団でいてください。」という言葉をいただいておりますので、これからも、松江三中の生徒たちを見守り、先生方やPTA（現在、活動休止中）からの要請があればいつでも協力できる体制を整えています。

今後も活動内容を工夫しながら「松江三中の生徒たちに見てもらえ、参加してもらえる」活動を目指していきたいと思えます。

6 学校長より

今年度も、コロナ禍で様々な学校行事・地域行事が中止になりました。大変残念でした。しかし、本校の教育活動を様々な側面からご支援いただきながら、子供たちを地域で見守っていただきました。

いつも思うことですが、ほとんどの応援団の皆様がお仕事を持っていらっしゃる、たいへんお忙しい中にもかかわらず、いつも松江三中のためにと気にかけていただき、本当に頭の下がる思いです。これからも子供たちのために、本校教育活動にご協力いただきながら「何かあったときに助けてもらえる学校応援団」でいていただけるよう、心よりお願い申し上げます。



松江第四中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第四中学校長 高萩 広志
 コーディネーター 富永 秀樹

2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	5 人
	生徒ボランティア	581 人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
園芸整備	10月	5 人
校内池整備	今年度は実施せず	
清掃活動	11月から12月	全校生徒
学校行事補助	今年度は依頼せず	



4 今年度の成果と課題



<成 果>

昨年度に引き続き、本年度も新型コロナウイルス感染予防を最優先にしたため、P T A活動と同様に、学校応援団の活動も見合わせ、校内に限定した活動にとどめました。

今年度は、本校用務主事、教師、ボランティア生徒が協力して、校門付近の花壇の整備や清掃活動を行いました。土や花に親しみ、また学校周辺の清掃活動に熱心に取り組む姿がありました。

また、本校舎入口にある池のメダカの飼育は、教師とボランティア生徒の活動として、昨年度の取り組みを引き継ぎました。元P T A会長から頂いた「みゆきメダカ」の餌やりや、稚魚を別容器での飼育、池の清掃など、生徒がかわるがわる面倒を見ています。そのおかげでメダカは大きく成長し、数も増えております。生徒もその成長を楽しみにしておりますし、来校者からも感嘆の声が漏れるほどです。

これらは、本校でも行っている持続可能な開発目標（SDG s）への取り組みにも大きく貢献しています。

<課 題>

今年度もコロナ禍による影響で、学校応援団・P T Aの方々の協力による「松四フェスティバル」が中止となり、学校応援団の方々の活動、生徒のボランティア活動の場がありませんでした。また同様の理由により、学校応援団の活動へも多くの方に関わって頂くことが出来なくなりました。

今後も社会の変化に応じた対応が求められ、学校応援団の活動も変化に応じた取り組みを考えていかなければいけません。

5 コーディネーターより

今年度は新型コロナウイルス感染症への対応のため、学校だけでなく社会や家庭での生活も大きく変化しました。戸惑いも多く、学校現場は本当に大変だったと思います。そんな中、校長先生をはじめ先生方が日々丁寧に対応していただき感染拡大することなく学校生活を送れることに、とても感謝しております。学校応援団も感染拡大を防ぐため、今年度規模を縮小し、ごく少人数で活動しました。今後も学校応援団として変化に対応した協力をしていきたいと思っております。

6 学校長より

今年度はコロナ禍での活動となりましたが、日頃より学校応援団の皆様の活動には心よりお礼申し上げます。活動は縮小しましたが、皆様の取り組みが生徒の意欲と励みになっていることに感謝しております。世の中が早く元の状態になり、全校実施の運動会や合唱コンクールなど生徒の輝く活動が戻ることを願っております。今後も応援下さいますようお願い致します。

松江第五中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第五中学校長 荒巻 淳
コーディネーター 牧島 孝行

2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	4人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
夢を育む講演会	○河合 来夢 2017、2018 ブレイキン世界選手権連覇 2018 ユースオリンピック ブレイキン個人・団体優勝 3月10日(木) 「パリオリンピックに挑む」	
学校図書館の充実	○学校図書館の整備 ・蔵書の分類 ・分類シールの貼り換え ・図書委員への指導	4名
地域貢献活動	○学校清掃ボランティアへ参加 ・生徒会、有志生徒	

4 今年度の成果と課題

<成 果>

夢を育む講演会では、パリオリンピック ブレイキン金メダル候補「河合 来夢」氏による「パリオリンピックに挑む」について語っていただきました。河合氏は2017年、2018年のブレイキン世界大会を連覇し、2018年にはユースオリンピックのブレイキン個人・団体の優勝しパリオリンピックにおいても優勝候補の最有力選手とされています。

母の勧めで始めたダンスとの出会い、仲間と努力を続けた絆、そしてパリオリンピックに向けての決意を熱く語っていました。保護者の皆さんにもリモートで参観していただきました。

学校図書館の整備では、ボランティアの地域の方4名に手伝っていただき、新規購入本の整備がほぼ終わっています。毎年学校として本を購入していますが、その整備はボランティアの皆さんが一手に担ってくれています。今後は委員会活動においてほんの貸し出しや返却をスムーズに行い、本の紛失を防いでいきます。

地域貢献活動では、今年度はほとんどの活動が中止となり、実施できることはありませんでした。しかし、生徒会主催の校内清掃ボランティアは、夏休み終了前と冬休み終了前に行い、毎回100近い生徒たちが参加し普段できない場所の清掃を行います。

<課 題>

「夢を育む講演会」では、今後有名になる可能性の高い講演者をお呼びすることができ盛況でした。今年度は実施できるか危ぶまれましたが実施できよかったです。この講演会は生徒たちに計り知れない効果があると確信しています。今後も継続できればと考えています。来年度以降も予算の範囲内で質の高い内容を検討していきます。小学校の出前指導では朝早いため顧問の負担がありました。地域の祭りやボランティア等への参加は、積極的な生徒は多いですが、来年度も同じ体制でやれるかが課題と考えます。

5 コーディネーターより

私、牧島孝行は松江第五中学校の学校応援団として、ついに10年目を迎えます。一之江小学校でも学校応援団コーディネーターとして活動してまいりました。学校応援団の活動として特に力を入れたのは「地域貢献活動」です。地域の小学校と中学校、高校が連携を図りながら地域の人々と関わっていくことはとても意義のあることだと考えますが、今年度は残念ながら一之江西口まつりや中央・一之江ふるさとまつりは中止となり、来年度以降もどうなるか先の見えない時代です。しかし、学校を元気にして地域を支えながら、地域を活性化させ地域で暮らす人たちを結びつける活動をこれからも続けられるよう知恵を絞って取り組んでいきたいと思っています。

私は松江第五中学校の卒業生でもあり、母校の後輩でもある地域の子供たちの活躍に大いに期待をしています。松江第五中学校が地域の拠点として絆が強く太いものになることを願っています。

6 学校長より

校長として2年目を迎えました。歴代PTA会長やOBの皆様の松江第五中学校に対する熱く強い思いをいつも感じています。地域に貢献できる活動が今年もほとんどできず残念でしたが、本校を応援して下さる皆様の熱意に応えるべく、教職員一丸となって松江五中の教育活動に全力で取り組んでまいります。これからもご協力をいただく場面が多いと思いますが、よろしく願いいたします。

松江第六中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第六中学校長 林 和夫
コーディネーター 平田 光男

2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	20人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
環境整備	不定期	10人
花植え運動	不定期	5人
朝のあいさつ運動	毎朝	1人
六中まつり	不定期	20人



六中まつりの様子



朝のあいさつ運動

4 今年度の成果と課題

<成 果>

主な活動は、環境整備として校門近くの花壇の花植え、シンボルの池の掃除、そして朝の挨拶運動でした。今年度は10月の六中まつりが規模を縮小する形で2年ぶりに開催できた一方、11月の五町会防災訓練・避難訓練は新型コロナウイルス感染防止のため2年連続で中止となってしまいました。六中まつりでは、大変困難な状況のもとで、どのような形式であれば開催が可能かを重ねて検討し、感染予防対策を十分とりつつ、当日は生徒たちが楽しく過ごせる時間を作り出すことができました。このことは、本校生徒が今まで地域の方々と一緒にボランティア活動に参加してきたことが生かされ、コロナ禍でも何か自分たちにできることはないかと考えた結果だと思えます。

<課 題>

今年度は昨年度に引き続き応援団の方と生徒と一緒に活動することがなかったので、来年度はこれまでの取り組みを引き継いでいくためにも、六中まつりや五町会合同防災訓練・避難訓練の実施に向けて生徒が学校応援団や地域の方と触れ合いながら取り組める内容について検討することが必要です。また、生徒会を中心としたボランティア活動などに学校応援団の方々に関わっていただけるものがないか考えてみることも課題です。

5 コーディネーターより

学校応援団のコーディネーターとして今年も、思うような活動ができませんでした。新型コロナウイルス感染防止のために長年積み重ねてきた行事ができなくなり私達だけでなく、子供たちが辛い思いをしていることに大変歯がゆい思いをいたしておりました。しかし、そんな中でも環境活動として花壇の花植えや池の掃除ができてよかったと思います。また、規模を縮小しながらも六中まつりを2年ぶりに開催できたことが応援団として今年の大きな成果でした。

子供たちは将来地域を支える大切な人材です。今後も学校応援団の活動をとおして、松江第六中学校を支援してまいりたいと思っております。

6 学校長より

将来の地域の担い手の育成ということで、例年、学校応援団の皆様には松江六中の教育環境の整備を行っていただくとともに、地域の行事にも本校ボランティア生徒を参加させていただくなど、学校と地域の橋渡しを積極的にしていただいておりますが、今年も新型コロナのために、生徒が参加できる地域行事が中止となってしまったため、学校の環境整備と朝のあいさつ運動を中心に活動を行っていただきました。また、学校行事へのご招待もできず、学校の様子を直接ご参観いただけない状況にもかかわらず、これまでと変わらぬ学校へのご理解・ご協力を賜り心より感謝申し上げますとともに、今後も引き続き本校へのご支援・ご指導をよろしく願いいたします。

二之江中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

二之江中学校長 茅原 直樹
コーディネーター 田辺 裕建

2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	30人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
二之江中を愛し育てる会	標語の顕彰(各学期1回) 環境整備(不定期)	15人
検定委員会	英語・漢字・数学検定の申し込みや 試験監督(各学期3回で計9回)	28人
学習指導	エンカレッジルームに来る生徒の 学習指導(毎週水曜)	2人



英語・漢字・数学検定
(年間各3回の実施)

4 今年度の成果と課題

<成 果>

- 今年度の検定委員会もスタッフを英語検定担当、漢字検定担当、数学検定担当と分担し、スタッフの負担を軽減しつつ、2学期は、英・数・漢の3つの検定を行い、3学期も引き続き英・数・漢の3つの検定を行う予定である。
- 今年もエンカレッジルームに来る生徒に対して学習指導を行うことができた。スタッフは引き続き都の人材バンクの紹介をお願いしている。来年度も継続してお願いする予定である。
- 二之江中を愛し育てる会の活動は計画どおり実施でき、顕彰作品への生徒の応募も例年通り多く、会の方も喜んでいる。

<課 題>

- 検定委員会のメンバーが新年度に入れ替わる際に、仕事の手順等の引き継ぎを確実にを行う。
- 昨年度よりは、多く活動ができたが、引き続き、新型コロナウイルス感染拡大を鑑みながら活動の実施並びに精査、検討していく必要がある。
- エンカレッジルームの学習支援は、スタッフの継続ができそうなので、引き続き依頼し発展させたい。
- 二之江中を愛し育てる会は、標語の顕彰を中心に様々なことに対して応援してくださる。来年度も引き続き応援していただけるよう関係を強化していく。
- これまで培ったノウハウが途絶えることのないようにしていきたい。

5 コーディネーターより

新型コロナウイルス感染拡大防止に対応しなければならない中、皆様が二之江中学校を応援していただき感謝いたします。さて、毎年お伝えしていることですが、学校・家庭・地域社会の三者の役割分担と密接な連携のもと、「子どもたちのために大人は何ができるのか？」これが教育の原点と考えております。このことを念頭に置き、皆様の協力を得て、三者の橋渡しをしていきたいと思っております。今後とも、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら二之江中学校を応援するため、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

6 学校長より

本校の学校応援団の原点は、開校当時から歴代PTA役員によって構成される「三江会」や平成12年に発足した「二之江中を愛し育てる会」にさかのぼることができる。それらが発足した当時の地域の方々が二之江中に寄せる思いは、切実なものがあったと聞いている。以来、子どもたちの健全な成長に学校と地域の皆様が協力し合って取り組むことができています。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止への対応のため、昨年度発足し活動した「地域ふれあい面接」や図書サポート委員会は実施できていない。今後、感染状況や区の対応状況を見ながら活動再開について対応する。

本校の学校応援団の活動は、多くの皆様のご理解・ご協力により順調に活動している。新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、今後とも、子どもたちのかけがえのない中学校生活3年間でより充実したものとなるよう、学校応援団の皆様のご支援をよろしくお願いしたい。

葛西中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

葛西中学校長 内野 雅晶
コーディネーター 土田 知美

2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	15人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
防災ボランティア	8月21日	15名ほど
夜間パトロール	8月16日、8月17日、8月18日 8月19日、8月20日いずれも中止	15名ほど
図書館整理ボランティア	週1回（毎週水曜日）	10名ほど
図書館清掃ボランティア	10月16日、10月30日 12月11日、3月12日	各回10名ほど



防災ボランティア



図書館清掃ボランティア

4 今年度の成果と課題

<成 果>

○今年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けました。学校応援団、PTA活動は必要最小限にとどまりましたが、防災ボランティアや図書館清掃ボランティアは実施できました。そして生徒の健全育成や校外生活の安全に係る活動、ボランティア活動の企画立案、生徒へのできる限りの積極的なサポートを中心に行いました。今年度の全体的な活動規模も昨年度並みにかなり少なくなりましたが、できることを確実に進めていく葛西中学校学校応援団の行動力が今年度も随所に表れました。節目である75周年を前に地域・学校・家庭のつながりを強く感じる1年となりました。

<課 題>

○小中併設校として3年目、今年度は新しくなった校舎・校庭など施設を十分に活用し、コロナ禍ではありましたが、運動会や学芸発表会など学校行事は実施できました。しかし、学校応援団としては、例年のような活動はできませんでした。来年度感染症が落ち着いたら、まずは実行可能な活動を見直しできることを見極め、情報を共有しながら課題発見に努めます。このような状況下でも学校応援団として意味があり効果のある活動を目指し、葛西中学校を支えるため、課題解決に力を注いで参ります。

5 コーディネーターより

- 年間を通し感染症拡大防止に努めながら、無事に教職員や生徒と協力し、活動できたことは有意義なことでした。必要な打ち合わせを工夫し、できる限り短時間で会議を済ませることができました。
- 学校応援団の活動のさらなる推進のため、より多くの人に参加し関われるよう、活動を広げていく視点でさらに発信方法を工夫していきたいです。次年度は今年度の活動を生かしてさらなる地域防災の拡大・充実など新しい工夫をぜひ取り入れたいと思っています。

6 学校長より

○区内で唯一の小学校併設の特色をもつ葛西中学校は、生徒のボランティア活動も小学生の存在を意識した取組を推進しています。図書館清掃は恒例となり、防災については今年度初めての試みでした。コロナ禍でボランティア実施数が減少しましたが、その状況下でも可能な活動を見極め、実施できたことは大変意味のあることで、学校応援団が生徒の活動を保証する支えとして機能していることだと感じています。生徒の自信や自己肯定感・自己有用感・自尊感情の醸成・向上を推進する有意義な活動として、今年度の反省を生かし、次年度はさらに拡大した活動になるように、引き続き学校応援団の協力を得て臨んで参ります。一年間、ありがとうございました。

葛西第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

葛西第二中学校長 植木 清
コーディネーター 福島 剛

2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在：令和3年度実績なし）

学校応援団ボランティア登録数	一般ボランティア	25人
	学生ボランティア	1人

3 今年度の活動予定

例年は下記のような活動を行っていますが、コロナウィルス感染防止対策として活動を中止しました。

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
防災訓練	年1回	(40人)
地域面接	年1回	(14人)
盆踊り巡回	年7回	(36人)

4 例年度の成果と課題（令和3年度は実績なしのため、例年度報告とします）

<成 果>

- ・ 応援団の取り組みのひとつである七町合同防災訓練は、葛西二中オフィシャルボランティアのひとつとして位置づけ、本校の伝統行事にもなっているが令和2、3年度は新型コロナウイルスの感染防止のため中止となった。
- ・ 地域の方と中学生が正式な形で話をすること、直接話を聞くことで、お互いの理解が深まり、より地域と密着した形での学校作りができると考えられるが、令和2、3年度は新型コロナウイルスの感染防止のため中止となった。
- ・ 地域パトロール、盆踊り訪問等は、保護者が地域の一員として、地域活性につとめている姿を見ることになり、学校の教育活動を支援して下さる地域の方として活躍している。そのため、子供が多様な体験活動ができ、地域と密着した子供の豊かな育ちにつながっていると思われるが、令和2、3年度は新型コロナウイルスの感染防止のため中止となった。

<課 題>

- ・ 令和 2, 3 年度は新型コロナウイルスの感染防止のため中止となった。来年度についても感染状況を鑑みながら、実施を判断しなければならない。
学校応援団の活動については充実を図ることも大切であるが、教員の働き方改革も推進しながら、既存の活動を工夫し、よりよいものにしていくとともに新たな活動を模索し、より充実した教育環境の整備を目指す。そのために P T A ・ 地域の方々に広く呼びかけ新たな人材の確保に努める。
また、協力していただく地域・保護者の方々、代表及び学校がより円滑に連絡・連携ができるシステムを工夫する。

5 コーディネーターより

- ・ 令和 2, 3 年度は新型コロナウイルスの感染防止のため中止となったが、本校における学校応援団の活動は来年度も引き続き現 P T A 本部役員や O B、そして同窓会、町会や地域の皆様といった本校とかかわりのある皆様にご参加いただく形で活動していきたい。
従来から変わらずにご支援いただいている皆様には深く感謝申し上げますとともに、来年度も引き続き葛西二中へのご協力をいただけますようお願い申し上げます。

6 学校長より

学校応援団の活動を通して、P T A を中心とする保護者の皆様や、町会や地域の皆様、同窓会、P T A、O B、卒業生といった多くの皆様に応援団協力者として教育活動へのご支援・ご協力をいただき、成果を上げてまいりました。

令和 2, 3 年度は新型コロナウイルスの感染防止のため中止となりましたが、これまで本校のためにご尽力いただいた皆様には心より感謝申し上げますとともに、今後も葛西第二中学校にご支援・ご協力のほどよろしく願いいたします。

葛西第三中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

葛西第三中学校長 金澤 栄治
コーディネーター 安次富 宏行

2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	15人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
環境整備活動	不定期	5人
行事・周年行事支援	不定期	5人
部活動支援	不定期	5人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

生徒が校舎内外で安全で安心した学校生活を送れるよう、学校で、環境整備や学校行事・部活動の活性化に全力で取り組んでいます。学校応援団の方々にも例年ご協力をいただいております。

奉仕活動においては、生徒は新型コロナウイルス感染症防止対策を含めて、環境整備や清掃活動に積極的に取り組み、全校体制できれいな学校づくりを目指して活動しています。

今年度も昨年に引き続き、コロナ禍のため地域のボランティア活動にあまり参加することができませんでしたが、奉仕活動に例年積極的に参加しているので、今後、町会の行事や近隣の施設の清掃活動などがあれば積極的に参加するよう呼びかけていきたいと考えています。

また、学校応援団の方の技術指導やサポートにより、学校行事の運動会や学芸発表会、各部活動の大会、発表会それぞれにおいて、優秀な成績を収め、より高度な活動または発表を継続して行っています。50周年行事に向けても、学校評議員会やPTA活動と連携し、準備を始めています。

地域の一員としていざというときに頼りになる存在として活躍できるよう学校でも指導していますが、地域の皆様にも生徒の健全育成にご協力をお願いしています。

<課 題>

コロナ禍の中で活動が縮小・限定されることがありますが、参加できるボランティア活動があれば推奨し、自主的に参加していくよう働きかけ、生徒を支援していきたいと思えます。

ここ数年、学校応援団に協力してくださる方が定着しています。今後、協力していただける方がさらに増えていけば一層の充実した活動を行うことが可能となります。コーディネーターと学校とが協力し、学校行事・部活動支援、環境整備活動等、学校応援団の活動をより多くの人に周知し、活動の幅を広げたいと考えていますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

5 コーディネーターより

今年度も引き続きコーディネーターをさせていただきます。昨年度同様、コロナ禍により応援団としての活動はかなり縮小してしまいましたが、学校と保護者・地域が一体となって子どもたちを育てていくというスタンスは変わりません。現代社会の中で学校活動においてサポートできることは何かを考え、可能な限り協力できる体制を整えて取り組み、応援団としての務めを果たしていきたいと考えています。これからも学校応援団の活動が地域に広がり、参加される方がさらに増え、活発な活動になっていくよう、全力で役割を遂行していきます。

6 学校長より

昨年度に続きコロナ禍で、模索しながらの学校経営となりましたが、昨年度の教訓を生かし、感染症対策を徹底しての教育活動、学校行事に取り組みました。コロナ禍にありながらも生徒たちは昨年度以上のもの、思い出に残るものとして自主的に活動し、本校の伝統を引き継ぐ取り組みが実施できました。と同時に自己肯定感も高められました。しかし、地域の方々や保護者に学校を公開して、生徒たちの生き生きと活躍する様子をお見せすることができず、歯がゆい思いもいたしましたが、なんとかここまで学校運営ができましたのも学校応援団の方々にお力添えをいただきましたことが大きな要因です。本当にありがとうございました。今後も、2年後に開催されます周年行事に向けてもご相談させていただきますので、引き続き学校応援団へのご理解・ご協力をお願いいたします。

南葛西中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

南葛西中学校長 加藤 益弘
コーディネーター 佐野 義郎

2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	37人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
花壇・農園整備	不定期	20人



4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

本校は、「地域とつながる南葛西中学校」として、多くの保護者や地域住民の方に支えられながらここまでできている。しかし、今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校応援団の方々にご協力いただくことが難しい状況であった。特に毎年行われていた、「地域ふれあい面接」や「図書館整備ボランティア」が引き続き実施できなかったことは大変残念であった。感染拡大の予断を許さない状態の中であったが、学校応援団の方々には今年度も花壇や農園の整備していただいた。春に花壇に植えられたサルビア、日日草、マリーゴールドが生徒を毎日登下校で爽やかに迎え、秋から冬にかけては、チューリップやパンジーが生徒を見守ってくれていた。学校に彩を与え、生徒や教職員の心の安らぎとなっている。

< 課 題 >

今年度新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大により、学校応援団の方々をはじめ、地域の方に来校していただきご協力いただくことの難しさを感じた。新しい生活様式を踏まえながら、学校にご協力していただく新しい形のボランティア活動を模索していかなければならないと今年度も引き続き感じている。

今後とも継続していくためには、新しく協力していただける方の発掘をしていかなければならない。町会、自治体の方々との連携を強め、校務分掌の中に担当者を置き、学校全体で継続的、発展的に進めていくことが重要である。

5 コーディネーターより

南葛西中学校の学校応援団の活動は、多くの方々にご協力をいただき定着している。今まで、「地域ふれあい面接」や「図書館整備ボランティア」、「花壇や農園の作業」により地域と学校が一体となって生徒を見守ることができていた。

しかし今年度も新型コロナウイルスが蔓延し、今後とも感染拡大がいつ起こるか予想できない状況であり、例年活発に行われている学校応援団の活動が限られた中でしか行われなかったのは寂しい限りである。

今後とも学校応援団として新しい形のボランティア活動も模索しながら、「地域とともに歩む南中」を実感することができる温かい関係を育めるよう、地域の子供の成長をみんなで見守り続けていきたい。

6 学校長より

南葛西中学校は、学校応援団の方々をはじめ、これまで多くの地域の方々に支えられながら子供たちの健全育成に取り組んで参りました。しかし今年度も学校応援団の方々に来校していただく機会が減り大変残念に思っております。中でも、花壇や農園の整備に足を運んでいただき感謝しております。本校にご協力してくださる方は、地元でも地域のために様々な活動をなさっている方々ですが、「南中生をサポートする」というお気持ちで長年関わってきて下さいました。皆様の関わりが、生徒にとって地域の一員としての自覚と、伝統を継承していく担い手としての自負が生まれてきています。今後ともご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

南葛西第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

南葛西第二中学校長 蓮沼 祥之
コーディネーター 高島 由紀子

2 ボランティア数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	24人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
陶芸ゲストティーチャー	不定期	8人
図書館ボランティア	月1回	6人
社会人講話ゲストティーチャー	2回	10人



陶芸 2年生美術 陶芸作品作り指導



図書館ボランティア 学校図書館の環境整備



ゲストティーチャー 2年生 職場体験に向けて

4 今年度の成果と課題

<成 果>

- 学校応援団の各活動グループリーダーと学校側で本年度の活動について検討した。今年度も、感染のリスクを減少させながら、できるだけ従来の活動を継続実施することとした。
- 活動の内容
 - ① 陶芸教室ゲストティーチャー（2年生美術科）

茶碗を作成する。粘土で形を作り、素焼き、絵付け、本焼までのプログラムを2学期から開始した。作品の完成は3学期。
 - ② 家庭科被服授業補助（1年生家庭科）

例年実施していた活動であるが、カリキュラムの関係等で本年度は、活動を休止した。
 - ③ 図書館ボランティア
図書館の環境整備や読書コーナー・情報コーナーや開架の工夫を行った。月に1回の作業を計画的に行い、手作り感のあふれる読書環境をつくることができた。蔵書の電子化、図書館司書派遣との相乗効果で、学校図書館が充実し利用生徒が多くなった。
 - ④ その他
2年生社会人講話の講師（ゲストティーチャー）派遣をコーディネートした。3学期実施するチャレンジザ・ドリームにむけて今年度は2回実施した。生徒にとって働くことを考える良い機会となった。

<課 題>

- 学校応援団のメンバーは、本校を卒業した生徒の保護者を中心に構成されている。社会人講話2回目は、本年度初めて協力いただいた活動である。今後も、活動継続のために応援団の拡大を図っていく。また新たな取り組みも行っていきたい。

5 コーディネーターより

- 感染症対策を図りながら、本校の生徒のために何かできればという思いで、学校と相談しながら活動しています。

ゲストティーチャーとして、生徒の学習に直接関わったり、学校図書館整備など陰で支えたり、生徒のために学校教育に携わることができました。また、活動を通して、学校の様子を知る機会になりました。

学校応援団の活動も、これまでの活動の蓄積により、とても充実したものとなっています。ぜひこの活動をご理解いただき、一緒に活動するメンバーとなっただけなら幸いです。

6 学校長より

- 今年度も、学校応援団の大変充実した活動に感謝申し上げます。コーディネーターをはじめ、応援団の皆様には感染症対策に配慮していただきながら、本校生徒のために様々な活動をしていただきました。ゲストティーチャーとしてのプログラム、学校図書館整備など、応援団の活動は大変充実しており、本校の教育活動に欠かせないものとなっております。

今後とも学校応援団の輪を広げ、質の向上をさらに目指していくとともに、多くの皆様の支援をいただきたいと存じます。

西葛西中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

西葛西中学校長 川崎 純一
コーディネーター 塙 正彦

2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	24人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校図書館ボランティア	毎週木曜日	18人
行事支援	不定期	10人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

昨年度に引き続き今年度もコロナ禍であったが、緊急事態宣言発令中を除いて図書館ボランティアの方々による活動を実施することができた。書棚の掃除、整理整頓、本の修繕、新しく購入した本の受入れ、古くなった本の除籍などの図書館内の整備と、毎週木曜日の生徒向けの放課後開館業務を行っていただいた。

また、昨年度から延期になっていた開校40周年の記念式典を令和3年10月29日に江戸川区スポーツセンターで開催したが、準備の段階から学校応援団の方々に関わっていただいた。学校ではない場所での開催であり全校生徒が参加するという点で、当日は会場の設営や片付け等かなり大変だったが、支援をいただいたお蔭で何とか無事に終えることができた。

<課 題>

例年実施している花壇・栽培ボランティア、運動会・学芸発表会等の行事支援、3年生の面接指導の活動は残念ながら実施できなかった。来年度の実施に向けて準備をするともに、新たな活動も模索していきたい。

5 コーディネーターより

今年度もコロナ禍の影響で図書ボランティアや周年行事の支援しか活動できず、3年生の入試のための面接練習やガーデニング部とタイアップして行う栽培ボランティア等の例年の活動ができず残念でした。学校の教育活動に少しでも役に立てればという気持ちはありましたが、感染予防のため仕方がありませんでした。学校公開もなく、生徒と関われる機会が少なく学校の様子も分かりにくかったですが、40周年の記念式典では生徒たちの立派な姿を見ることができました。

来年度こそはコロナが収束し活動の場が広がることを願い、準備を進めていきたいと思っています。

6 学校長より

今年度もコロナ禍にかかわらず、多くの図書館ボランティアの方々に活動をしていただき、感謝申し上げます。教員だけではなかなか十分に対応できない図書館の蔵書管理や整備に関して、ボランティアの方々の献身的な活動により、常に整った状況が維持できました。

また40周年記念式典に向けての準備、当日の設営・片付け等で学校応援団の方々に関わっていただき、学校としては大変心強く感じました。今年度も例年行っているその他の活動ができなかったことは誠に残念でしたが、来年度こそはいつもの活動が再開できることを切に願っています。

東葛西中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

東葛西中学校長 日暮 昌司
コーディネーター 木下 真理子

2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	40人
	学生ボランティア	3人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校図書館整備	不定期	4人
部活動支援	週4日	3人
学校農園管理	不定期	1人
英検、漢検の補助	年6回	30人

菜園で育てている小松菜



整備された図書館受付



4 今年度の成果と課題

<成果>

今年もコロナ禍の影響が残り、様々な活動が中止や延期となってしまいました。そのような中でも、地域の方や保護者の皆様に変にお世話になりました。PTA役員から保護者へ声掛けをしてい

ただき、英語検定、漢字検定の補助をお願いしました。実施できる機会に資格を取ろうと考える生徒が増加したためか、検定受験者の人数が増加しました。密を避けて受検を実施するために、たくさんの方の保護者の方にお手伝いいただきました。

毎年、3年生にエールを送る餅つき大会を行っていますが、今年も実施できませんでした。そこで、昨年と同様にご用意いただいた餅米を給食で活用させていただきました。給食だよりでも餅つきをお願いしている地域の方を紹介しました。直接触れ合うことはできませんでしたが、少しでも交流できたのではないかと思います。畑の環境整備をお願いしていますが、今年も小松菜の収穫などでお世話になりました。

また、今年も、図書館の受付を模様替えし、より活動しやすい図書館にするお手伝いをいただきました。

<課題>

- ・コロナ禍により直接の交流が難しい状況が続いています。新しい応援団の在り方を工夫する必要があると思われます。
- ・毎年ですが、善意を基本とした活動だけに、時間調整など気を遣う場面がありました。
- ・花壇の管理について、継続して関わっていただくことは難しく、職員との連携がうまくいかなかったこともあり、花壇整備を中止する形になってしまった。

5 コーディネーターより

今年度、感染症流行の影響で思うように集まれない状況でしたが、例年同様、英検・漢検の補助を行いました。畑では、回数は少なかったものの、生徒たちとともに大根や小松菜の種をまき、収穫を行いました。また、図書室の整備も行いました。

ただ、これまで続けてきた花壇の整備について、学校職員との連携に関わる意思疎通が難しい場面があり、中止することにしました。「学校応援団」に対する理解・認知度が低くなっていると感じます。とはいえ、ボランティア活動で出会った生徒たちの笑顔は私たちの大きな力となりました。今後も微力ながら楽しく活動していきたいと思っております。

6 学校長より

「地域の子どもは地域が育てる」をスローガンとして、学校応援団には「学習活動」「見守り」「学校環境の整備・推進」「地域の伝統文化の継承」等、さまざまな場面でご協力を仰いでいます。学校応援団の取組は「学校」と「地域・保護者」が子どもたちの健全育成にとって両輪となっていることを現したものです。様々な活動や学習への支援を通して多くの生徒たちに関わっていただくことで、まさに地域に根ざした教育活動が実践されていると感じます。

昨年度に続き、新型コロナウイルス感染防止対策のためいくつかの行事が中止となってしまいました。そのような中でも、新型コロナウイルス感染防止のための備品提供や、英検・漢検の試験監督などで引き続きお力をお貸しいただき大変助かりました。地域として学校を支えていただく学校応援団の存在は、大変大きいものと言えます。

清新第一中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

清新第一中学校長 薦田 敏
コーディネーター 山本 祐子

2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア登録数	一般ボランティア	41人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
花サークル	全体作業(年4回)、グループ毎の作業(月2回)	30人
サプリメントペアレンツ	不定期 PTA 防災教室での活動	11人

☆学校応援団連絡会議



☆花サークル活動



☆花サークル活動(花壇)



☆花サークル活動(花壇)



4 今年度の成果と課題

<成 果>

花サークルは、学校の教育環境整備に欠かせない存在です。本校の広い校地を利用して、用務主事と協力して花壇づくりを行っています。四季を通じて多くの花が飾られ、生徒は気持ち良く学校生活を送っています。

サプリメントペアレンツは、父親の会で結成されていて、毎年恒例の防災教室（PTA主催）でお手伝いをしていただいています。具体的には、かまどベンチで火をおこし炊き出しをして生徒や地域の皆様に味わってもらっています。

<課 題>

現在の学校応援団は、従来あったPTAのサークル活動を基盤としたものです。しかし、今後、時代のニーズにより、学校が支援していただきたい活動が新たに生まれることも予見でき、その際にあくまで学校側からのニーズで活動が広がること、生徒に還元される活動であること、この二つの学校応援団の趣旨にあった団体・個人の応援団であることをしっかりと確認していくことが課題です。

5 コーディネーターより

子どもが卒業後も地域の一員として学校を応援していくシステムを作ろうと、平成23年の学校応援団発足時に、当時の校長先生と話し合い、清新一中では、PTAのサークル活動を基盤に、現役保護者と地域の人たちが連携して活動し、また、地域の方々による生徒の学習指導や面接のお手伝いを担う、学習支援の取り組み等も行われ、学校、保護者、地域が三位一体となった活動をしてまいりました。次年度からは、薦田校長先生のご要望により、学校応援団の体制が刷新することになります。現保護者と地域の方々と連携した現行の体制は、今年度で終了することになりました。最後の一年間は、花サークル・応援団、サプリメントスタッフの皆様方の活動となりましたが、校舎内に、季節ごとにきれいな花々を植えてくださり、子どもたちの心を和ませていただきました。10年間、清新一中の学校応援団として、子どもたちの教育と環境のために、愛情をもって活動してくださいました各サークル・応援団の皆様、地域の皆様方に心より感謝申し上げます。また、これからの清新一中の益々のご発展をお祈り申し上げます。

6 校長より

時代とともに学校から学校応援団にご協力いただきたいニーズが変わってきました。例えば、授業にゲストティーチャーとして地域の方にご指導いただく活動は毎年継続していますし、今年度から英語検定や漢字検定を行う際に地域の方にご協力いただいています。ギガスクールで生徒一人一人にタブレットが配布されていますが、教員に足りないICT活用技術についてのアドバイスをいただける地域の方、PTA広報誌の作成アドバイスをくださる地域の方なども、校長の依頼を受けて校内で活躍してくださっています。これらの方々に「学校応援団」に位置づけ優先的に活動していただくために、これまでの本校学校応援団の仕組みでの活動は今年度で区切りを付け、次年度からは校長の求める優先順位に基づく活動に衣替えることにしております。本校では平成23年度の学校応援団発足当時から、山本様にコーディネーターを依頼して、従来あったPTAのサークル活動を基盤とした大人数の組織を作り、活動を進めていただいております。すてきな広報誌、力仕事も厭わないサプリメントペアレンツスタッフ、整った図書室、きれいな花壇など、これまで応援して下さった方々には、長年にわたり大変お世話になっており、感謝の念に堪えません。本当にありがとうございました。

清新第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

清新第二中学校長 成瀬 一博
コーディネーター 諸隈 智映子

2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	16人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

例年は下記のような活動を行っておりましたが、新型コロナウイルス感染症防止対策として活動を中止いたしました。

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
警備関係	6月の運動会、学校周辺警備	3
夜間パトロール支援	7・8月 夏休み 学区域夜間パトロール	10
マラソン大会支援	12月 生徒の見守り	3

4 今年度の成果と課題

今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策として、すべての活動を中止しました。地域と学校との強いつながりを維持していくためにも、学校での教育活動の様子等を学校だよりやHPを通して知っていただいています。来年度は通常の活動ができるように、方法を工夫しながら活動してまいりたいと思います。

5 コーディネーターより

今年度も、新型コロナウイルス感染防止のため、残念ながら学校応援団としての活動がすべて中止となりました。来年度は、再び様々な形で学校をサポートする活動ができることを祈念しております。

6 学校長より

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大の影響があり、ほぼすべての学校行事がやり方を工夫した上での開催となり保護者の方も含めて生徒以外の来校を制限させていただきました。そのため、常日頃から学校の教育活動を応援していただいているみなさまの来校をお断りしなければなりませんでした。

学校では、保護者、地域の方々との相互の協力体制の中、生徒を多くの目で見守っていただき、安全・安心のもと、学校生活を今後も送れるようにしていきたいと思っております。来年度はまた、様々な対策を講じながら、通常の活動ができるようにしたいと思っております。今後とも皆様の応援をどうぞよろしくお願いいたします。

瑞江中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

瑞江中学校長 岩下 敏夫
コーディネーター 平根 康宏

2 ボランティア数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	9人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書ボランティア	学期に1回	4人
		
パソコン学習講座	年9回	5人
		

4 今年度の成果と課題

<成 果>

学校応援団の活動も今年で11年目になりました。長く学校応援団として部活動指導をしていただいているベテランの指導員や、現役の保護者が毎年引き継ぎながら活動していただいている図書ボランティア、江戸川人生大学からパソコン指導といろいろな方面からご支援いただき円滑に応援団の活動が行われています。学校応援団のそれぞれの方々との連携も深まり、瑞江中学校の教育目標である「自ら育つ」生徒の育成に向けた教育活動を確実に支えていただき、開かれた学校づくり、生徒の健全育成の一助として大変お世話になっております。今年度はコロナ感染症のため活動ができませんでしたが今後も生徒、教職員、PTA、地域の方々と一体となって、来年度以降の教育活動を推進していきたいと思っています。

<課 題>

- ① パソコン教室に関しては、水曜日の授業終了後、職員会議の間の部活動が始まる前の時間帯から実施していただくことで参加しやすくなり参加者が増加した。また内容もPC検定対策を取り入れていただくことで、生徒が受験に向け目的をもって参加していた。新型コロナウイルスの影響で活動できなくなっているが、来年度はPC検定4級、3級合格を目指して活動できることを願う。
- ② 3つの活動をお願いしているがPTA活動よりも緩やかな組織であり、指導者の人材確保が難しい。
- ③ 年度当初に計画的に必要な予算案を立て、有効活用していくことの必要性を感じる。

5 コーディネーターより

平根 康宏

瑞江中学校「学校応援団」代表（コーディネーター）となって11年目になりました。我が子が在籍中はPTA役員として教育活動に関わり、今年度も学校評議員として瑞江中の教育活動を陰ながら応援しています。子供が卒業すると中学校との関わりもなかなか取りづらくなってしまいがちですが、現役の保護者やPTA顧問会の皆様、おやじの会のメンバーなどとともに、学校応援団としていろいろな場面で学校の活動に関わってきました。今年も残念ながらコロナ感染症のため活動できない状態となりました。来年度は学校応援団として大きな応援の広がりを作り上げていきたいと思ひます。益々のご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

6 学校長より

岩下 敏夫

今年度もコロナ感染症のため活動できませんでした。本校の卒業生である、江戸川人生大学の方々のご協力により、年9回の「パソコン教室」を実施しておりました。昨年度、図書室保護者ボランティアの方々の活動はできませんでした。今年度はコロナ感染が減少した時期に、図書室をきれいに整備していただき大変助かっております。生徒一人一人の可能性を伸ばすため、いろいろな面から支援していただき、とてもありがたく思っております。来年度は、今年度の活動を継承しつつ、内容の充実を図ってまいります。

瑞江第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

瑞江第二中学校長 滝澤 清豪
コーディネーター 川原 晴久

2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	14人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校図書ボランティア	毎月1回 月曜日に集まって活動	14人
学校花壇ボランティア	年4回のうちコロナ禍のため1回実施	14人

学校図書ボランティア



学校花壇ボランティア



4 今年度の成果と課題

<成 果>

- 1 花壇の美しさが本校の特徴の一つになっている。それを生徒が自覚している。
- 2 本の修理、本の購入、本の廃棄が計画的にできていることで、蔵書の管理がしやすくなっている。
- 3 ボランティア活動に参加する機会を得て、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育成できた。
- 4 PTA や OB 会の方とのふれあいを通して地域の一員であることを自覚することができた。

<課 題>

- ・コロナ禍の活動の難しさ。
- ・教員の応援団との協働、意識向上を図ること。
- ・活動内容の整理と確認及び新たな取組の模索をすること。
- ・学校応援団と生徒が協同作業の回数が限定的であること。

5 コーディネーターより

学校応援団代表として、学校に協力できることをPTA・OB会の皆さんや同窓生とよく相談している。これからも学校との連携を一層密にしていきながら、教育支援に意欲のある方々を発掘して学校を応援していきたいと考えている。

開校時に園芸部員として地域の方々と共に作り上げた学校花壇の意味（「静」ゾーンの校舎と「動」ゾーンのグラウンドとの線引きを意味する）と学校が開校以来、常に地域と共にあり、生徒、教職員、保護者、地域の皆さんの多くの努力、情熱に支えられて今があることを伝えることができた。

学校応援団代表として花壇ボランティアや図書ボランティアなどの活動に生徒と一緒に取り組めることを喜び、学校応援団の活動がより広く、活発になるよう代表として活動していきたい。

川原 晴久

6 学校長より

生徒に面接練習をする中、本校の特徴はと尋ねると、『校内の花壇に咲いているたくさんの花と、学校の敷地を囲んでいる草花が瑞江二中の特徴です。』とほぼ全員の生徒が答えます。また、来校者や近隣の方からいつもお褒めの言葉をいただいています。これは、PTA や OB の皆さんが中心となって、学校花壇の整備をしていただいているおかげです。また、応援団の皆様、教職員、生徒が一体となって花壇の手入れを行っている姿が見られ大変喜ばしいことであります。そして、図書ボランティアの活動では、毎月1回、図書館の整備をしていただき、昼休みの図書館開放では、生徒が訪れていましたが、今年度もコロナ禍の制限中の活動となりました。来年度は少しずつでも活動を再開させて、地域とともに生徒たちを育てる体制が一層強固になっていきますよう、瑞江二中への応援をお願いいたします。

滝澤 清豪

瑞江第三中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

瑞江第三中学校長 清水 寿之
代表 澤井 茂

2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	2人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書ボランティア	不定期（図書室内掲示物作り、昼休み 閲覧補助、廃棄図書整理）	2人
みどりの応援団	応募者が少なく実施出来ませんでした	0人

図書ボランティア



4 今年度の成果と課題

<成 果>

- ① 本年は地域やP T A活動が縮小されるなか、少ないながらも学校応援団に応募していただいた。図書ボランティアは、毎日のように来ていただいて活動することが出来た。
- ② 図書ボランティアは2名だが、新校舎移転に伴って新図書館の整理や図書配置、掲示物作りなどを手伝っていただいた。
- ③ みどりの応援団は、新校舎改築のため植える場所があまりない状況なので活動が出来なかった。

<課 題>

- ① 今年で2人の方が集まってくれた。しかし、もういちど2年前の状況にするのは簡単ではないと思われる。
- ② 江戸川区では学校応援団という名称にとらわれず、地域の諸団体が、学校を支援していくという意識が以前から根付いている地域である。そうしたつながりを大切に、もういちどゼロから作り直すつもりで活動の輪を広げていきたい。

5 代表より

昨年度に引き続きコロナ禍ということもあり、学校外の人間が生徒と接触することは感染拡大防止にはよくないことと思うところがあり、活動が進みませんでした。しかし学校応援団の意義は、世代間や個人、団体の考えを尊重し、それぞれの存在意義を包括しながら学校を支援していこうというところにあると考えます。

瑞江・篠崎地域は地域町会を中心にしながら、各団体の活動や支援が良き伝統として根付いており、学校応援団として活動に参加しやすい土壌ができています。今後は家庭、地域、学校がそれぞれの役割を明確にしながら、お互いを助け合っていくための音頭取りを代表の役割として、さらに活動の輪を広げていきたいと考えています。(澤井)

6 学校長より

本校の学校応援団は、平成24年度に、従来から本校を支援くださっているP T A O B会の皆さまが中心となって発足されました。

毎朝のあいさつ運動をはじめ、瑞三感謝祭、資源回収などの伝統的な活動がありましたが、2年続いて開催することは出来ませんでした。昨年度に続き出来なかったことが多かったなかで、新校舎移転を契機に図書整理を推進していただいたことは、大変有難いことです。

学校を取り巻く地域町会やP T A O B会、さらに保護者の皆さんの支援には心より感謝申し上げますとともに、今後とも学校教育に関心を持っていただけますように、私たち教職員も一丸となって教育活動を展開して参りたいと考えております。

今後ともご指導とご支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。(清水)

春江中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

春江中学校長 横枕 耕史
コーディネーター 芦田 昭八

2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	21人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
農園活動	不定期	5
図書ボランティア	月、金曜日	6
学校行事警備等	不定期	10



4 今年度の成果と課題

<成 果>

今年度の活動は農園活動・図書ボランティア・学校警備等の3種である。

農園活動については、大根の栽培を行った。ボランティアの方々がご高齢になり、昨年度から農地の大幅な縮小を図った。当然、農作物の量が減るので、収穫できた農作物は家庭科部の活動等で利用を行う予定であったが、新型コロナウイルスの対応のため、調理の活動は実施することができなかった。仕入れから栽培まで手広く活動していただき、農園の維持・管理に携わってくださった。

図書ボランティアについては平成30年度からの活動である。一昨年度から、主に月曜日と金曜日の週2回以上、図書ボランティアの手で開館し、その業務に携わっていただいた。生徒への本の貸出業務だけではなく、書籍の廃棄や購入などの管理、学校図書館の内装の装飾、「春中図書館通信」の毎月の発行など精力的に活動していただいている。特に、今年度は学校司書と連携し、昨年度以上に図書館の整備ができた。

学校行事等警備については何年も継続して活動していただいている。「春中メンズクラブ（おやじの会）」の方々が運動会や文化祭といった大きな行事の警備をはじめ、施設の営繕活動にも取り組んでいただく予定であった。しかし、コロナ禍の中、今年度は活動ができなかった。

<課 題>

農園活動のボランティアは、今年度をもって終了することになった。農園活動のボランティアが中心となって行ってきた元PTA会長の北島様が御逝去され、引き継いで実施する方が見つからないのが現状である。農園活動にかわる、新たなボランティア活動をつくることが今後の課題である。

5 コーディネーターより

今年度を持ちまして農園活動は終了させていただきました。ここ数年の間、農園活動の維持が大きな課題となっていました。現在のボランティアに携わる方々の状況を踏まえ、終了は止むを得ないと判断しました。長い間、春江中の伝統ともいえる活動に携わった、ボランティアの方や先生方、本当にありがとうございました。また、図書ボランティアや学校行事警備等については直接関わっていませんが、活動している方々には本当に感謝しております。今後も学校応援団コーディネーターとして学校と地域のよりよい関係のために尽力したいと思います。

6 学校長より

学校応援団コーディネーターの芦田様をはじめ、農園活動、図書ボランティアの活動、春中メンズクラブでの学校行事警備等の活動に携わった学校応援団の方々に、常日頃の活動について深く感謝申し上げます。特に農園活動におきましては、長年にわたりご協力いただきまして本当にありがとうございました。学校応援団の活動は、ボランティアを行っていただいている皆様のご厚意で運営できています。今後とも、生徒の健全育成のためにご理解とご支援よろしく願いいたします。

鹿本中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

鹿本中学校長 富永 光一
コーディネーター 加藤 正人

2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	13人
	学生ボランティア	1人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学習補充教室	長期休業中（夏季・冬季）	0人
特別支援学級補助	不定期	0人
図書館整備	不定期	0人
手話通訳	難聴学級「卒業生講演会」（9月）	1人
餅つき会運営	延期	0人
朝のあいさつ運動	学期1回、一週間	PTA活動
心和む 花を！	学期1回	2人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

学校周辺地域は、学校を温かく見守り、応援していこうという伝統的な協力体制があります。その伝統は受け継がれ、現在でも保護者、PTAのOB・OG等の皆様や卒業生の皆様から温かなご支援・ご協力をいただいております。

今年度も新型コロナウイルス感染症のため例年通りの活動はできませんでした。昨年度から始めた「心和む 花を！」プロジェクトを推進し、道路に面した敷地内に花を植え、咲かせることができました。生徒らが手入れを丁寧にしたため、予想外に長く咲き続けました。生徒も手ごたえを感じていましたが、総合体育館を利用する方々から「きれい」「歩く楽しみがある」などお褒めの言葉をいただいたことが、何よりもの喜びとなりました。これを契機にさらに地域に根差した学校を目指していきます。

<課 題>

ボランティアの登録人数やPTA以外の地域協力者を確保するのが難しい状況です。平日の放課後に図書館解放や学習教室を手伝ってくれる人材を確保し、読書活動や学習をより一層、活発にしていければと考えています。また、応援団と生徒が協力して校内の整備・美化活動を活発にしていきたいと思っております。2年前にPTAOB・OG会が再編成されましたが、コロナ感染症の影響もあり、連携活動が出来ていません。

5 コーディネーターより

この一年間、鹿本中学校の取り組みにご協力とご支援をいただきまして、心から感謝申し上げます。応援団は「あくまでボランティア」とは言え、自分の時間・生活を割いて学校に出向いて下さる方々の善意に甘え続けることは心苦しく感じます。

今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大で例年の活動ができませんでした。「心和む 花を！」プロジェクトも2年目に入り、徐々に地域から認知され、「次は何の花?」「手入れが大変でしょう」などという声を聞きます。関係ある鹿本中学校が地域のために役立ち、評価されていることは、何よりも嬉しいことです。地域や卒業生などの協力を得られるようにさらに努力していきます。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

6 学校長より

学校応援団の皆様、卒業生の方々、そして、PTAの方々など多くの皆様からの応援をいただきまして、心よりお礼申し上げます。

鹿本中学校には、通常の学級と特別支援学級、そして難聴通級学級があります。それぞれ、特色ある教育活動に取り組みながら、お互いを認め合い、励ましあい、高めあって中学校生活を送っています。学校応援団の皆様には、この特色ある教育活動にご支援を戴いております。教員では補いきれない分野での活動においても取り組めると感謝しております。今後とも生徒の自己実現のため、ご指導、ご協力頂きますよう、よろしくお願い致します。

鹿骨中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

江戸川区立鹿骨中学校長 大谷 雅也
コーディネーター 加藤 苗人

2 ボランティア数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	5人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
花壇整備	年4回	3人
図書館整備	年1回	1人
敬老の日のお手紙	年1回	1人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

「コロナ禍でも日々の生活を大切にして、中学生でもできるボランティアを行って、学校や社会がよくなるような喜びや楽しみをつくりだしていきたい」と、生徒が自ら活動に取り組み、学校応援団に支援していただきました。

○花いっぱい運動

「花の街 鹿骨」の伝統を守るために、学校を花でいっぱいにする活動を行いました。花苗の調達や花壇のレイアウトなどを生徒が自ら行い、正門の花壇に花苗を植えました。花苗は、学校評議員さんからも協力をいただき、年間を通して花壇を楽しんでいただきました。

地域の方が花壇を見て「とてもきれいだね」と言葉をかけていただきました。「この花壇を見て、元気で明るい気持ちになってくれてうれしいです」と生徒の感想も聞くことができました。また、10月には3月の卒業式を祝うためにチューリップを植える活動も行いました。

○敬老の日のお手紙

敬老の日には有志の生徒が、メッセージカードを作成しました。民生児童委員を通して、町会の高齢者の集いで披露していただきました。「鹿骨中学校の皆様の励ましやお礼の言葉に元気に長生きしなければと思いました。心温まるメッセージをありがとうございました」とお礼状をいただきました。

○図書館ボランティア

図書館の整備や廃棄本の整理を学校応援団の方にご協力いただきました。

<課 題>

学校応援団の組織を再確認することと、学校と応援団の間の情報の共有方法について体制を確立したい。

5 コーディネーターより

今年度は、生徒のボランティアと一緒に人数制限をしながら、花いっぱい運動として、玄関前の花壇の整備やプランターに球根植え、図書館整備を行うことができました。来年度は、少しでも多くの方々と幅広い活動を行い、少しでも鹿骨中学校の教育活動の支援ができればと思います。

6 学校長より

新型コロナウイルスの影響で学校応援団の活動が制限されたが、コロナ禍でもできる取組を工夫した。来年度は、活動の幅を広げたい。

教育活動には、学校応援団の支援が不可欠である。感謝し、引き続きのご支援をお願いしたい。

篠崎中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

篠崎中学校長 清水 秀登
コーディネーター 中川 博喜

2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	10人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
朝の声かけ運動	毎日実施	550人
運動会パトロール	中止（保護者に非公開だったため）	(20人)
祭礼パトロール	中止（年1回の予定であった）	(20人)
篠中フェスタ	オンラインで開催（10月末）	10人
PTAバザー	中止（年1回9月実施予定であった）	(20人)
校内美化活動	中止（年1回7月実施予定であった）	(10人)
花壇整備	2月下旬に実施予定	10人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

- ・生徒の育成を学校・保護者・地域が一体となって育てていく土台になってきている。
- ・「朝の声かけ運動」は伝統的な活動になっている。ほぼ全ての保護者が年間を通して1回ずつ参加するため、登校時の生徒の様子を共有することができて大変意味深いものになっていると考えている。参加した保護者が、あいさつの様子を記入して職員室に一声かけて学校の様子などを話すなど連携が深まり、生徒たちもみんなに見守られている感を強く感じている。
- ・校内美化活動、環境整備についても生徒と一緒に活動する良い活動であったが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大のため中止になった。
- ・卒業式に向けて2学年の保護者が正面玄関の花壇整備を行う。昨年度は実施できなかったが、今年度は2月下旬に実施予定である。

<課 題>

- ・学校応援団の人材の確保や平日の日程調整が難しい。
- ・教職員との連携を一層充実していくことが必要である。

5 コーディネーターより

- ・今までの活動を継続しながらも、新しい試みや改善をして現在の活動の形になってきています。PTA会長経験者が代表になるケースが継続しており、PTAとの連携や地域との連携もスムーズにおこなわれていることが活動を深めているように感じています。
- ・今年度も新型コロナウイルス感染拡大のため、「朝の声掛け運動」「花壇整備」の他はほぼ中止になってしまいましたが、「篠中フェスタ」をオンラインで開催するという今までにない工夫をしながら活動できたことを嬉しく思っています。
- ・地域性の温かさや篠崎中学校が地域から愛されていることを大切にしていきたいと思っています。
- ・今後も生徒、学校のために、地域の住民として学校応援団に協力していきたいと思っています。

6 学校長より

- ・今年度は1学期から年間を通して「毎朝の声かけ運動」を実施することができました。保護者の皆様は、お忙しい朝の時間にもかかわらず、毎日代わるがわるご協力くださり生徒たちを温かく見守りながら挨拶をしてくださっています。心より感謝するとともに大変心強く思います。
- ・運動会・校内美化活動の学校行事への協力、また祭礼パトロールのPTA行事へのお手伝いなどは、今年度もしていただけませんでしたが、新型コロナウイルスがやや収まってきたため、花壇整備の実施、オンラインによる篠中フェスタの実施を行うことができました。様々な場面で工夫をしながらご協力をいただき感謝しております。
- ・学校・保護者・地域の願いが、「誇れる母校」を目指し、地域の一員として自覚をもてるように育てています。今後もネットワークをさらに広げ、強めることにより生徒のために充実を図っていきたいと思います。

篠崎第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

篠崎第二中学校長 本杉 貴保
コーディネーター 朝倉 公義

2 ボランティア数（令和4年1月末現在：今年度未募集）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	0人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

（一昨年までは、下記のような活動を行っていましたが、新型コロナウイルス感染防止対策として今年度も活動を中止しました。）

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
あいさつ運動	毎週水曜日	
行事支援	不定期	
学校公開	不定期	

4 今年度の成果と課題

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から全ての活動を中止しました。

<成 果>

【一昨年までの活動】

- ・ 6月実施の運動会での、自転車整理や受付業務のお手伝い。
 - ・ 10月に実施するPTA主催のバザー「篠二プラザ」において、餅つきを担当。
 - ・ 柔剣道場周辺にある竹林と柵の環境整備や管理。
- 不定期ではありますが、年間を通して地道な活動をしていただいています。

<課 題>

- ・ ワクチン接種がある程度すすんだものの、ボランティアの方は、PTAのOB・OGの方がほとんどで高齢化が進んでおり、新型コロナ感染対策防止の観点から活動を計画して行うことはできなかった。
- ・ 今年度もコロナ渦で、高齢化が進んでいるボランティアの方との交流は、感染のリスクや重症化しやすいなどの観点からも直接的な交流をもつことはできなかった。
- ・ 今後のことを見据え、卒業生や学生ボランティアを積極的に活用するために学校HPなどで呼びかけていく。

5 コーディネーターより

例年、応援団の皆さんには、公私ともに大変ご多用の中、それぞれが都合のつく時間で活動をしていただいております。しかし、昨年度同様、新型コロナウイルス感染が収束を向かえない中での活動は一斉控えさせていただきました。そして、防止対策の観点だけではなく、ボランティアの方及びそのご家族の命を守ることを第一に考えさせていただきました。今後も、様々な変異ウイルスが現われてくることも予測されますが、世界的にコロナ渦が、一日も早く収束することを願っております。

しかし、今後の活動について考えると、内容によっては現在のメンバーだけでは体力的にも厳しいものもあるとおもいます。そこで、課題で上げましたが卒業生や学生さんなど、年齢の幅を広げられるよう、メンバーを募る活動を進めていきたいと思っております。皆さんと一緒に篠崎二中を盛り上げていきたいと思っております。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

6 学校長より

学校応援団の皆様には、日頃から本校の教育活動にご支援とご協力をいただき、感謝申し上げます。応援団の皆様のご協力には、学校としてもありがたく思っております。

今年度は、学校自体は休校などの処置は無かったものの、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた対応が求められ、学校行事なども制限をされました。今年度も学校応援団、PTAの皆様にも事情を説明してご理解をいただき、今まで行っていた環境整備や篠二プラザなどの活動も今年度も中止とさせていただきました。

一日も早く新型コロナウイルス感染拡大が収まり、地域の皆様が学校応援団として本校を応援していただき活動できることを願っております。

小岩第一中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第一中学校 学校長 青山 昭広
コーディネーター 望月 一宏

2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	約110人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
あいさつ運動	生徒の健全育成のためのあいさつ運動 (不審者パトロール含む)	延べ約40人
三校一園合同音楽会	楽器運搬作業(11月)	延べ約30人
生け花体験	学芸発表会・部活動(10月・不定期)	延べ約10人
玄関装飾花壇づくり支援	プランター及び樹木植え付け、花壇 (不定期)	延べ約30人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

P T A活動に学校応援団活動を位置づけ、学校行事を中心に保護者・地域の方から広くボランティアを募る予定だった。しかし、学校の行事は、規模を縮小したり、中止または延期となったりしたため、「学校応援団」の活動も限られたものとなった。学校評議員・民生児童委員・保護者・地域の方々と情報交換は行えた。

学校花壇は多くのプランターを整備し、校門付近を装飾した。活動が制限される中、P T A役員や「学校応援団」の方々からの発案で、登下校のパトロールを兼ねた保護者のあいさつ運動が行われた。P T A役員や「学校応援団」の方々からの応援はありがたく、P T A役員の呼びかけのおかげで昨年度から継続して活動できていることが成果である。

<課 題>

例年、本校は近隣小学校のP T Aと連携し三校一園P T A連絡協議会を（園は閉園）設置し、三校一園合同音楽会を開催している。昨年度は中止となったが、本年度は三校P T Aや町会等地域の皆様の協力を得て、規模を縮小し開催することができた。今後も、感染状況を検討しながら継続していく。感染症対策を十分に行いながら、活動を工夫し、新たな活動を模索していく。P T A・地域の方々に広く呼びかけ協力をお願いしていくとともに、人材の確保に努めていく。

5 コーディネーターより

本校における学校応援団の活動は例年通り保護者、P T A役員の方々やP T A役員O B、そして、同窓会や町会等地域の皆様といった本校とかかわりのある方々にご参加いただき活動する予定でした。しかし、コロナ禍で状況を見ながらの活動となりました。

学校応援団の活動を継続していくためには、それぞれができる範囲で無理をせずご協力いただくことが、大切と考えています。昨年度から始めたあいさつ運動は、今年も6回を数えました。今後も引き継いでいきます。

今後の活動もまだまだ予測のできない年になるかと思いますが、この経験を糧に生徒たちが成長できる環境づくり等をサポートしていきます。

6 学校長より

本校では、「みんなが幸せになれる学校」を目指しています。実現のためには、学校、家庭、地域が力を合わせていかななくてはできません。本年度はコロナ禍の中、保護者、P T A役員、P T A役員O B、同窓会や町会等地域の皆様等、多数の方々からできる範囲での応援をしていただきました。心より御礼申し上げます。これからは、学校、家庭、地域が協力した行事が増えていくことを願っています。また、今後も、生徒の健やかな成長へのお力添えをよろしく願いいたします。

小岩第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第二中学校長 橋本 孝
コーディネーター 尾崎 友信

2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	20人
	学生ボランティア	人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
花の植付け・栽培	6月～9月 ひまわり、スノーポール・菜の花・キンセンカ植付け・栽培	28人
パンジー栽培	9月 パンジーの植付け・栽培	35人
環境整備	江戸川土手清掃 ※新型コロナウイルス感染防止のため今年度は中止	0人
募金活動	JR 小岩駅前でのユニセフ募金 ※新型コロナウイルス感染防止のため今年度は中止	0人
土日部活動支援	令和4年1月～令和4年3月 ※新型コロナウイルス感染防止のため今年度は中止	0人
学校図書館支援	不定期 ※新型コロナウイルス感染防止のため今年度は中止	0人



4 今年度の成果と課題

<成 果>

- ・参加した生徒は、夏はひまわり、秋はスノーポール・菜の花・キンセンカの栽培を行いました。雑草を抜き、土を耕して花壇を整備するところから始め、種をまき、交代で水やりを行いました。みな楽しみながら作業を行い、植物に愛着をもつようになりました。
- ・パンジーの栽培は成長させた後、高齢者施設に届けることを目的に行いました。約400のカップ一つ一つに土を入れ、種をまきました。参加した生徒はこの作業を通して、人のために役に立つ喜びを感じることができたようです。

<課 題>

- ・今年度も新型コロナウイルスの感染拡大防止を考えながらの運営となり、例年行ってきた江戸川土手清掃、JR小岩駅前でのユニセフ募金、土日部活動支援、学校図書館支援などは残念ながら実施ができませんでした。今後もコロナ禍においてもできる活動を模索しながら取り組むたいと考えています。
- ・今年度の取組は生徒のみの参加となったので、来年度はPTAや地域の方々とも一緒になって緑化運動を進めていければと思います。

5 コーディネーターより

学校の活性化とともに地域の活性化にもつながる「応援団の活動」が来年度さらに実施できるようになり、また二中の生徒のみなさんと活動できる日を心まちにしております。

6 学校長より

学校応援団コーディネーター尾崎友信様はじめ今年度も学校応援団ボランティアスタッフに登録してくださったみなさま、昨年度につづき今年度も大変残念な状況になりました。地域・町会のみなさまとお会いすることもかなわず、この1年が終わろうとしています。

これまで学校応援団のみなさまには、学校図書館整備支援や、部活動指導等、生徒たちの学習・部活動に大きく貢献していただきました。今年度も新型コロナウイルス感染防止のため、多くの活動を中止せざるを得ませんでした。来年度こそ、この事態が収束し、「ボランティアの二中」と呼ばれる状況が戻ってくることを心から願わずにはおられません。

今後とも小岩二中を応援していただき、「学校と地域の絆」をより強められるよう地域の皆様のお力に期待しております。「応援したくなる学校づくり」のために私たち教職員も参加を心がけ、保護者・地域の皆様方とコミュニケーションを深めます。引き続き「学校応援団」のみなさまのご協力をお願いするとともに、新しい「応援団」づくりのためにコーディネーターと力を合わせて取り組んでまいります。

小岩第三中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第三中学校長 武田 信樹
コーディネーター 日高 久仁子

2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	100人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
廃品回収	年4回	80人
菜園管理・指導	年10回	1人
面接指導	年1回	19名



ゴーヤ・グリーンカーテン



屋上菜園での野菜作り



廃品回収



菊の三本仕立て

4 今年度の成果と課題

<成 果>

学校応援団のみなさんの力が、生物環境部による活動において生徒の支えとなっています。受験期の3年生を対象とした面接練習を、地域の方々をお願いしています。これらは「心の教育」を重視している本校の大きな特徴の一つとなりました。団長（コーディネーター）を中心に学校の環境整備にも計画的に取り組むことができました。本年度は教室前にゴーヤによるグリーンカーテン作り、屋上菜園で行った野菜作り、菊づくりなどを通し植物への理解を深めるなど、生徒たちの生きる力につながりました。

<課 題>

サポーターとしての大人の募集や維持費の捻出が課題です。屋上緑化の維持管理を中心的に行ってくれる学校応援団員を見つけることを目標としていましたが残念なことに見つけることができませんでした。令和4年度も新たな応援団員を募集し、さらなる活性化を図っていきます。

5 コーディネーターより

私が学校応援団として活動するきっかけは屋上緑化のお手伝いでした。日々進化していく屋上での活動を進めていくうちに生物環境部のお手伝いをするようになりました。

子供達と過ごす時間はとても楽しく、最初は土いじりに消極的だった生徒も何かを発見したり自然と触れ合ったりしているうちに、“わぁ！すごい！”とすごく感動し、積極的に活動に参加するようになった姿を見ると本当に嬉しくなります。収穫の喜びなど、楽しいこともたくさんある反面、夏の暑い中での草取り、芝刈りなど、大変なこともたくさんあります。微力ではありますがこうした活動のお手伝いをするにより、生徒たちをより身近に感じながら学校の環境を整えることへ繋がっていけば、こんなに嬉しいことはありません。

学校応援団では、屋上緑化など自然との共存する活動の他にも部活動や学校行事の取り組みのお手伝いもしています。少しでも学校の力になりたいと思っている地域の人々と、学校教育をより充実させたいと考えている先生方の思いがつながり結成された学校応援団。こうしたあたたかい気持ちのつながりが充実した学校環境をつくり、子供達へと伝わっていくことを願いつつ、これからも活動していきたいと思えます。

6 学校長より

本校の学校応援団の取り組みもスタートして12年目を迎えました。取り組み内容にありますように、様々な活動を展開していますが、学校の教育環境の充実や生徒の心の充実という目的に叶ったプロジェクトになっています。本校では、校舎屋上での野菜作りや植物栽培、学校内外の環境整備がその活動の柱となっていますが、応援団の方々には生徒の活動を支える大きな力になってもらっています。また、部活動や学校行事にも応援団の方のお力添えをいただいております。何よりも、生徒たちが屋上の野菜や植物、生物を大切に育てたり、見守ったりしながら自分たち自身の心を育ててくれていることが大きな成果だと考えています。これからも、保護者や地域の方々のご協力ご支援を得ながら、有意義な学校応援団の活動を続けていきたいと考えています。

小岩第四中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第四中学校長 鈴木 訓文
コーディネーター 若松 喜美子

2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア登録数	一般ボランティア	4人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
面接指導	年1回	1人
花の名称札づくり	年3回	4人

<木・花の名称 札づくり>

「校庭の木・花の名称 札づくりで、生徒に木・花の名前を知り、親しむ心を築く」
学校応援団の協力により、校庭の木・花の名称 札づくりによって、知らなかった植物に対して親しみを持てるようになった。コロナ禍もあり、生徒のボランティアは今回、募集しなかった。



<面接練習>

三年生の面接練習の面接官として1名の方に協力していただきました。



4 今年度の成果と課題

<成 果>

- ・「地域ふれあい」として、地域の方に3年生の面接練習をお願いしている。生徒は緊張しながらも実際に近い形の練習ができ、地域の方には生徒の実態がつかめるということで、双方にとって良い機会となっている。
- ・校庭の木・花の名前を知らないまま通り過ぎていた生徒も、名前の表示をすることによって木・花に興味をもって関心をよせるようになった。コロナ禍ということで、生徒のボランティア参加はなしとした。
それ以外にも、図書を整備を行っている。多面的に活動をしているので、多くの方々に協力をいただいている。継続的な取組により、学校応援団に対する保護者や地域の方々の理解も深まっている。

<課 題>

課題として次の3点があげられる。

- ・コロナ禍で今までできていた事が難しくなっている。例年通りの活動ができないので、できることを考えながら、地域の人材を活用し、多くの方に協力を願いたい。
- ・生徒参加の活動を考えたいが、部活動が日々あるので、無理のない程度で、子供たちができる事も今後考え、活動する。
- ・菊を育てていた場所がスロープになり、今回は菊づくりを断念した。長年菊づくりを行い、文化祭で鑑賞する事が出来ていたが、近年文化祭もコロナ禍で中止となり、見せる機会がなくなってしまった。代わりに、木・花の名前を表示することになったが、菊に代わる企画を考えるのが難しい。

5 コーディネーターより

学校応援団長として、14年間学校支援に携わっている。「菊作り」を今回は断念した。その代わりに、校庭の木・花などの名前を表示することにした。少しでも、生徒が知らなかった木・花の名前を表示し、関心を抱いて貰えれば幸いです。また、面接などの機会に学校の様子もうかがわれ、とても楽しみにしている。今後も、いままでできていたことが、当たり前にならず、困惑することがあったが、地域に根を張った「学校応援団」を目指して、学校の要望にあった幅広い支援の輪を広げていきたい。

6 学校長より

コーディネーターをはじめ学校応援団の関係者の皆様には、ご多用にもかかわらず、例年と変わらず面接練習や図書整備など、いろいろな活動をしていただき、とても感謝しております。今年度は感染症対策の影響でできないことも多かったのですが、本校では、健全育成の場として、地域の皆様と生徒がふれあう機会を大切にしています。地域での生徒のボランティア活動が再開されれば、また参加させていただきたいと思います。そのような活動をさらに推進していくためには、学校応援団の皆様のご協力が不可欠です。引き続き、来年度以降も本校の応援をよろしく願いいたします。

小岩第五中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第五中学校長 石井 千歳
コーディネーター 前場 利彦

2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	18人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校農園	通年	8
高校合同相談フェスタ	7月（コロナ感染症拡大のため中止）	10
PTA 来てきてバザー	10月（コロナ感染症拡大のため中止）	10
地域清掃	2月（予定）	8

学校農園で収穫した野菜の一部



長ねぎ



玉ねぎ



冬瓜

4 今年度の成果と課題

<成 果>

比較的天候に恵まれた今年度も、「学校農園」の活動は順調に進んでおります。農園部の皆様のお力添えもいただき、特別支援学級や技術科の授業においてこれまでに長ねぎ・玉ねぎ・冬瓜・ミニレタス・トマトなど、様々な旬野菜を収穫しました。5月は長ねぎ、6月は玉ねぎ、9月には冬瓜といった収穫野菜を給食にて提供して参りました。収穫した野菜を献立に使用した日は校内放送にて伝え、ホームページにも掲載しました。

<課 題>

応援団の活動のもと、学校図書室運営の支援をはじめ、ますます充実した生徒の教育支援や学校施設の修繕・修理など、学校生活のさらなる活性化を目指します。そのための人材の確保が今後の課題です。

5 コーディネーターより

コロナ感染防止に努めながら、今年度も運営委員会において小岩第五中学校に携わる全ての団体の代表の皆様に参加いただき、学校応援団の役割や活動についての話し合いを行いました。ボランティア活動を通じて、生徒たちの健全育成を応援できるようなできる限り積極的に引き続き活動していきたいと思っております。

状況を鑑みながら、これからも地域の方々にも関わっていただけるよう活動の輪を広げていきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

6 学校長より

私は生徒とのコミュニケーションの一環として校舎内を歩くよう心がけていますが、校舎内だけではなく校庭、学校周辺もよく歩くことにしています。校地内の草花をはじめ、東側に位置する農園も、季節の移り変わりを感じさせてくれるお気に入りの場所です。本校の生徒たちもまた、ネギやトマト、冬瓜などの収穫を楽しみにしています。地域の方々も手をかけてくださる姿を目の当たりにしながら、収穫された食材が給食として提供されるこの一連の流れは、食育として大変貴重な機会だと痛感しています。

コロナ感染症拡大のため今年度も中止せざるを得なかった「高校合同相談フェスタ」や「PTA 来てきてバザー」は、来年度こそ実施したいと思っております。これらも地域と学校を結びつける活動であり、生徒にとっては新鮮な活動の場です。大きな達成感とともに、地域への帰属意識を育んでくれることと楽しみにしています。

学校教育に一段と大きな期待が寄せられている中、学校応援団の皆様方にお力添えをいただけることは、とてもありがたいことです。主に「学校農園」と「地域美化」「PTA活動」などにご尽力いただいておりますが、応援団の皆様のご多大なるお力添えに感謝いたします。今後のさらなる発展にご協力くださいますようお願い申し上げます。

上一色中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

上一色中学校長 梅田 保幸
コーディネーター 菅原 一之

2 ボランティア登録数（令和4年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	6人
	学生ボランティア	4人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書整備、図書館管理	9月から 週に2~3回	5人
学習支援	実施できず	0人
花いっぱい運動	不定期	2人

花いっぱい運動



学校図書館



4 今年度の成果と課題

<成 果>

本校では昨年同様、「図書ボランティア」による放課後の学校図書館開館を実施しています。今年度は新規の生徒が図書館を利用する機会を増やし読書への推進となるよう努めました。新たなボランティアの方も増え様々な企画をご提案いただいています。花いっぱい運動では、四季を感じさせる花々を花壇やプランターいっぱいに咲かせ、花あふれる学校を目指しました。

<課 題>

本校では、最近、学校応援団に関わる人材の確保が課題としてあげられます。今年度は、教員志望の、学生のボランティアが声を上げてくれましたが、コロナ感染防止もあり計画が立てられなかったことが課題です。来年度はぜひ学習支援が実施できるよう努めたいと考えます。図書ボランティアには、保護者が積極的に参加していただきました。生徒が来室しやすい学校図書館をということで工夫いただいています。

今後は、募集活動をしていきます。地域の皆様の力をお借りしながら応援団の活動の幅を広げるとともに、活動を活性化していきたいと思います。

5 コーディネーターより

学校の小さな花壇にも春の到来。まさにすくすくといった感じです。あと一月もすると桜が開花するものでしょう。少し季節が進むと、まだ芽しか見えなくても分る姿に育ってくれるに違いありません。

学校近くのバスストップに、部活の終了時間が早まったせいか中学生が待っていました。聞くとはなしにコロナの影響での小さな変化が起きていることを知りました。それにしても学校の敏感な対応に感心させられました。

鈍感と敏感どちらがいいのだろう。敏感のほうがいいだろうと思いつつ、自分の敏感に即応する感受性が欠けた敏感さは鈍感に通じないだろうかと沈思。

新型コロナウイルスの影響で処々に大きな変化が見られます。敏感に対応する所産なのであろうとほっとさせます。変化を滑らかに受け入れられるためには、気持ちによりそう「共感」が必要です。緩やかな受け入れは、弱みを逆手にとってもいいところを見つけてもらい、アピールする取り組みです。自主自立や創意工夫が求められ、「ないものはない」「あるものはある」のです。学校や家庭に揃っていないし、自分の弱さを見せて周りとは共有し、するりと危機感を持ってアイデアを出し、弱さを逆手にとって何とか始めることではないでしょうか。

皆で周りの課題を発見し、人間関係を築き、誇りと共に人との対話を重視する。人を見てデザインしていかねば、永くは存在しないのです。一瞬で終わってしまうことのないよう、じっくり観察してデザインしていくことではないでしょうか。

コロナ下で多くのことを学ばせてもらいました。学校の柔軟な対応と敏感さは、生徒に学ぶ素材が数多くあることを知らせたでしょう。3月の花咲く時を心待ちにしながら援けの一助に沿いたいと思うばかりです。

6 学校長より

本年度もコロナ禍での活動を強いられることとなり、図書館サポートの活動は感染状況を見ながら何とか実施することができたものの、花いっぱい運動の方はなかなか集まる機会に恵まれず、十分とは言えないまま年度末を迎えることになりそうです。学習支援も学校の状況と学生ボランティアの状況がうまく合わず、未実施となってしまいました。せっかく築上げた実績が忘れ去られてしまうことを危惧しております。来年度こそは募集も含めてこれまで培ってきた実績を取り戻せるよう、応援団の皆様のお力をお借りしての通常活動ができることを願っております。引き続きのご協力、よろしくお願いたします！